

15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-94

学校名・団体名	鳴門市大津西小学校
HPアドレス	<a href="http://e-school.e-tokushima.or.jp/naruto/es/ootsunishi/html/htdocs/?page_id=48">http://e-school.e-tokushima.or.jp/naruto/es/ootsunishi/html/htdocs/?page_id=48</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	大津町の自然を守る ～地域の絶滅危惧種の保護活動～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>鳴門市大津町は自然豊かで、絶滅のおそれのある動植物がいくつか生息していることが知られている。最近ではソデグロヅルやコウノトリが飛来するような自然が残る地域として注目されている。児童には、故郷の環境に興味を持たせ、大切な自然を守る意識を高める機会として環境学習を推進している。特に、徳島県内で絶滅したと考えられていた淡水魚カワバタモロコが、2004年に本地域で生息が確認され、2012年から徳島県と企業と学校が連携して取り組む保護活動「絶滅魚カワバタモロコ再生プロジェクト」を継続している。また、鳴門市の天然記念物オニバスも水槽で育てている。</p> <p>このような地域の絶滅危惧種の保護活動の取り組みを継続し、後輩や地域の人々に伝え広げ、自然環境や動植物の保護と故郷を大切にしていきたいと思える子どもの育成をめざしている。</p>	

## 1 活動時期及び内容

### ア、地域の生き物調査（7月）

この活動は2011年度から継続し、本年度も5・6年生が、大学や水産研究所の先生から水路の環境や生き物について講義を受け、身近な環境について関心を持つ活動を行った。その後、実際の水路で生き物を採集し、地域に生息する川に住む生き物を調べた。



(生き物調査)

### イ、水路の水質調査（7月～9月）

水質も調べることで、生き物が生息している水路の水質を調べ、生き物が繁殖しやすい環境について観察を行った。

### ウ、校内の観察池をミニビオトープにしよう（6月～3月）

校内のスイレン池を地域の生き物が生息しているようなミニビオトープ的な場所に整備して、地域の自然を近くに感じる事ができるような観察場所を作る活動を開始している。植物の専門家に池の植物の特徴を教えていただき、地域に自生する動植物が育つ観察池にすることを考えている。

### エ、カワバタモロコの飼育活動（4月～翌年3月）

水槽でカワバタモロコを育てる活動を継続したが、本年度は、繁殖に成功し51匹の稚魚を育てることができた。

11月には、徳島県科学経験発表会でカワバタモロコとメダカを比較した研究を発表した。カワバタモロコについて、他校の人に紹介することができた。



(産卵の観察)

### オ、オニバスの保護活動（4月～翌年3月）

舎外のタイ水槽を使い、地域のため池で採取した種子のオニバスを育てる活動を継続している。日当たりや肥料の関係で十分な大きさに成長させることができなかつたことを反省し、次年度に向けて植物が成長していない時期に移植したいと考えている。



(鳴門市天然記念物のオニバス)

### カ、大津町の自然を守る活動の発表（2月）

6年生が大津町の自然や学校の活動について、写真や文章でまとめた表現物を作った。鳴門市のホームページを参考に、自分たちの住む鳴門市や町内のよさを再確認する機会となった。そして、参観日には、そのまとめを保護者に紹介し、自然の豊かさや絶滅危惧種の保護についての理解を呼びかけた。

## 2 成果

本校は、徳島県が主となって組織している「カワバタモロコ増殖・放流連絡会議」が推進する活動に参加している。本年度は、カワバタモロコの産卵と稚魚の飼育に成功したことが自信となり、児童が、主体的に取り組んでいくという意識が少しずつ高まってきたと言える。夏休みも毎日カワバタモロコの卵を確認し、稚魚に餌をあたえ観察をする活動は命を守るために欠かすことができないものとなった。児童に責任感も育ってきた。

そして、自分達の住む地域の自然の素晴らしさを感じるだけでなく発信していこうとする行動として、5年生が理科学習で学んだメダカとカワバタモロコの違いを研究し、校外で発表する機会に恵まれた。また、6年生は、自分たちの地域で考える環境学習の実践として「総合的な学習の時間」でまとめた絶滅危惧種の説明を参観日に、保護者に発表する機会を持つことができた。自分たちの活動や思いを表現する力が育ちつつある。



(徳島県科学経験発表会)

今後も、徳島県内の自然に関する知識を有する方々（地域の知識人、博物館学芸員、大学の先生等）に支えられながら、水生植物や鳥の自然豊かな生息地として故郷を大切にしていきたいと思う体験学習を続けていきたい。本校の環境教育は、今後も日々の身の回りの活動を継続することを大切にしていきたい。

(参観日における発表会)

